

ジェンダー配慮の良い事例（参考）

プロジェクト情報

- 国名：セネガル
- 案件名等：改良燻製釜の開発
(個別専門家派遣：水産行政アドバイザー)
- 期間：2001年から2003年(2年間)
- 先方機関：漁業省

1. 事業概要

(1) 背景・経緯

セネガル国の沿岸海域、漁場としてのポテンシャルが高く、年間40万トン前後の漁獲生産量がある。水産業は1986年以来、同国の輸出総額の4分の1以上を占める最大の外貨獲得源であるだけでなく、同国の就労人口の17%に相当する約60万人が漁業及び関連産業に従事するなど、経済における重要な産業である。また、水産業は、国民一人当たりの摂取する動物性タンパク質の約75%をまかなうなど、食生活の面でも重要な役割を果たしている。水産業の置かれた状況をさらに詳しくみると、漁獲生産量全体の約80%は男性が従事する零細漁業者によって水揚げされ、その漁獲高の約40%は、水産物加工(干物、燻製の製造)にまわされる。水産物加工労働者の90%が女性である。

水産業に対しては多くのドナーからの支援が行われているが、その大部分は零細漁業が対象である。

燻製は、砂浜の上に枝葉を置いて魚を燻すという方法で女性たちが行っている。こうした燻製方法は、衛生的に問題が多だけでなく、燻製過程で生じる煙により健康を害したり、大気汚染が生じるなどしている。また、魚を砂浜に並べ、出来上がった燻製魚を砂浜から拾うのはかなりの重労働で、これにより健康を害する女性もいる。こうした燻製作業の課題を解決するために、他ドナーが燻製釜の製作を試みたが、使い勝手の悪さ等から釜は継続的に使用されることなく、釜を使わない伝統的な燻製方法に戻ってしまった。

(2) 事業目標と活動

衛生状態の改善、健康面の改善、女性の労働軽減、収入向上を主目的として、魚の燻製のための改良釜の開発を行うとともに、改良釜の使用を定着させる。そのためのモデル改良釜の開発、釜製作のための関連研修の実施、材料調達ルートの開拓などの活動を行う。

2. 日本側関連援助

(1) 無償資金協力「カヤール水産センター建設計画」 (2001年)

カヤール地域(首都ダカールより北へ約60Km)における零細漁業の振興及び漁村の発展を目的として、水産流通施設(漁獲物水揚場) 水産物加工施設(塩干物加工場の改善、加工品倉庫等) 漁民支援施設(漁民用倉庫)等の建設に必要な資金を供与する。

3. プロジェクトにおけるジェンダー配慮の実施

男女双方への裨益、公平性の確保

(1) ジェンダーの視点からの重点援助分野の概観と事業の選定

水産業に対しては多くのドナーからの支援が行われているが、その大部分は男性が主たる対象であった。同じ水産業でも、女性が主な担い手である水産物加工は、課題はありながらも援助対象として採り上げられることは多くなく、取り上げられなかったとしても男女漁村民のニーズを反映していない事業が多かった。このため、女性のニーズを踏まえた直接女性自身に裨益するような協力を実施するため、意識的に加工分野を援助対象として採り上げることとした。

女性のニーズに対する支援

(2) 直接の裨益者となる女性からのヒアリング

他ドナーによって制作された(以下、「従来の」)燻製釜は継続的には使用されず、伝統的な燻製方法に戻ってしまった。女性たちのニーズを正確に把握するため、燻製釜の問題点や不足している点について女性から直接聞き取り調査を行った。この際、発言の場に男性が一緒にいると、女性はその意見に従わなければならないという現地の慣習もあることを考慮し、女性だけの集会で意見を聞く工夫を行った。

(3) ジェンダーに配慮した施設設計

従来の釜は蓋がないため多くの燃料を必要とした。蓋がある場合でも、蓋が大きく重いため女性の力では運びにくい、また、釜丈も高く、身長が低い女性たちには、釜の中にある燻製の状況を確認できないなどの問題があることもわかった。このため、女性も持ち運びができるよう蓋を軽くするとともに、釜の前に踏み台をつけるなどの工夫をし、女性の重労働の軽減を図った。

また、経済性から、釜の燃焼率や耐久年数の向上も目標にモデル改良釜を開発した。改良普及釜により、釜の耐久性と燃焼率が向上し、それに伴い木材消費と大気汚染が大幅に減少した。大気汚染の減少は、それまで気管支炎などの病気にかかる女性の多かった状況の改善にもつながった。

(4) ジェンダーに配慮した維持管理方策

従来の燻製釜が使用されなかった理由の1つに、燻製釜の使用方法を実際の実用者である女性たちが知らなかったということがわかった。このため、ワークショップを開催し、女性たちのオーナーシップを高めるとともに知識普及を図った。この際、燻製釜製作マニュアルを作成したが、成人女性の識字率が30%未満と低い(男性は約50%)状況に留意し、絵やイラスト付きのものとした。

また、燻製釜の補修や製作は、主として女性が担うことになる。このため、持続性確保の観点から、材料や業者は地元のものを使用し、以降も女性たちや地元の人々が自身で釜を作れるように工夫した。

女性のエンパワーメントの促進

(5) 女性の自立のための収入の向上

改良普及釜を使った燻製は、伝統方法より、生産量が2~3倍と増加しただけでなく、形も整い質も良いという結果をもたらした。これにより燻製の販売価格は高くなり、女性たちの手にする収入も増加した。女性たちは、これまでできなかった家庭内におけるお金の使い方に関与できるようになったり、自ら得た収入を家族の治療費や子どもの教育費に当てたり、貯金に回すことができるようになったと変化を語った。

(2006年5月作成)